

平成30年11月27日

ファスニングジャーナル(4面)に掲載されました

# 海外5社のチームが地元と交流

## 日東精工グローバルQCC改善発表会

日東精工(株)（本社：京都府綾部市・材木正巳社長）は11月9日、創立80年の記念特別事業として行われた「グローバルQCC改善発表会」の一環に、地元・綾部市が取り組む交流事業に参加。同社海外法人よりの来日中の5社16名が綾部市・山崎善也市長への表敬訪問を行なうとともに、綾部市立豊里中学校を訪れて生徒たちとの交流を楽しんだ。

「グローバルQCC改善特別事業」は、中期経営発表会」は、同社が創営計画「日東パワーアップ80周年を迎えるための記念プロジェクトFINAL」



の最終年度でもあることから、真のグローバル化を目指す目的で11月4日～12日の期間に渡り実施された。海外法人5社（台湾・インドネシア・タイ・中国・マレーシア）で事前にQCC発表が行われ、選抜チーム計16名が来日。5日～8日は、「グローバルQCC改善発表会日本大会」の見学および「同世界大会」への参加、親会社である日東精工(株)の工場にて特別研修などが行われた。

9日は、本社所在地の綾部市が世界連邦都市宣言を行った地方自治体で、綾部市立豊里中学校にて海外法人から来日した諸氏の交流のしよう

あり、国際教育にも注力するグローバル都市であることから、交流事業に参加。同市と日本を担う若い世代に外国人と直接触れ合う機会を設ける事で双方のグローバル感性を磨くとともに地域社会との絆を深める内容で企画・実施された。

同日午前11時、綾部市役所において山崎善也市長を表敬訪問。同社経営企画室の上原規室長が司会進行役となり、はじめに全員が起立して日本語で「よろしくお願います」と挨拶。

山崎市長は日本および同市を訪れての感想や熱帯地方からの参加者が多いことから気温差の寒暖差など健康面にも気遣い、時には英語でコミュニケーションを図る場面もみられた。また、同市が国際教育に注力する背景にも触れ「当市はグローバル環境下でも生活ができる

教育を行っており、中学では海外への短期留学プログラムもあります。そのような中で企業様より交流事業に協力して頂けるのは喜ばしい」と述べた。最後に全員が日本語で「ありがとうございました」と挨拶して記念撮影を行った。

午後は綾部市立豊里中学校を訪問。授業二コマ分を使って生徒と英語でのコミュニケーション。五時限目では、生徒達と同中学校について紹介した後、数人のグループに分かれてクラブ活動などを紹介。六時限目は、海外法人来日者よりの自国の首都などをOXクイズで出題し交流を楽しんだ。10日・11日は日本の文化に触れる機会も設けられ、有意義な時間を過ごし12日帰国となった。

今回の「グローバルQCC改善発表会」には同社海外法人のうち旭和螺絲工業股份有限公司（台湾3名）▼PT. NITTO ALAM I NDONESIA（インドネシア5名）▼NITTO SEIKO (THAILAND) CO., LTD. (タイ3名) ▼日東精密螺絲工業（浙江）有限公司（中国3名）▼MALAYSIA PRECISION MANUFACTURING SDN. BHD.（マレーシア2名。QCC発表は行わず特別聴講として参加）が参加。